

第4

京都の特性を活かした 生涯学習の振興—地域のために—

1 京都の伝統と蓄積を活かした生涯学習の振興方向

(1) 文化、芸術の蓄積を活かした生涯学習

京都の豊かな歴史、文化、芸術の蓄積を新しく生涯学習の観点から活用し、京都はもちろん全国の人たちにも、楽しい質の高い学習の機会や場の提供を目指します。

京都は、長年にわたる歴史、文化、芸術、産業等の伝統と蓄積を有しています。これらを新しい観点から有用な学習資源として活用し、府民はもちろん、全国の人たちにも楽しい質の高い、京都ならではの生涯学習の機会や場の提供を促進するとともに、これらを後世に伝え、活用できるよう、伝統を継承していく仕組みづくりを図っていきます。

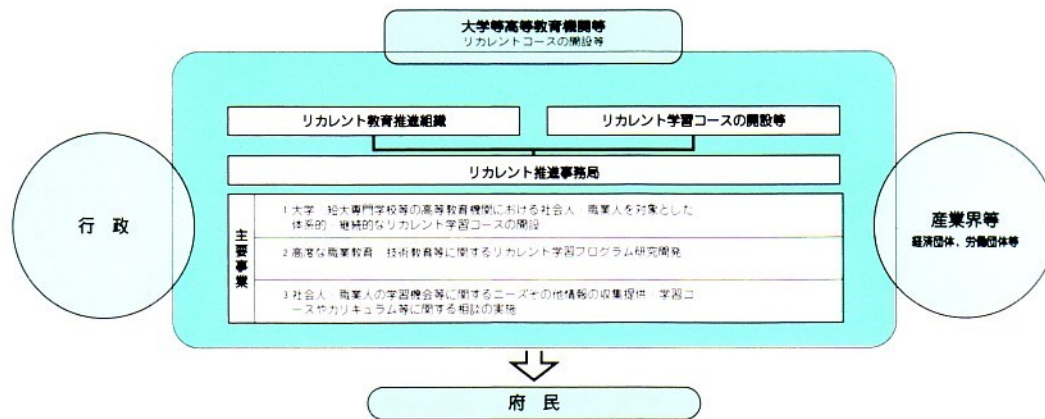
また、府民がいきいきと学び、新しい文化の創造に寄与していけるよう、質の高い生涯学習のための施設や京都を舞台とする情報交流のための収集・発信機能の充実に努めます。

特に、平成6年(1994年)は平安建都1200年にあたりますが、これを契機に我が国を代表する京都の歴史文化や先人たちの偉業について学ぶことは、新しい未来を築いていくために意義深く、京都の歴史、文化、伝統などを活かした学習機会の充実に努めます。

京都府内の各地域には、先端産業技術等においても優れたものがあります。特に、21世紀の科学と文化・芸術の時代に向けて、京都の先端的企業や大学、行政等が力を合わせて科学的、文化・芸術的空間を創出し

つつ、科学や芸術に触れ、学べる場の創造を促進します。

また、京都府内各地は美しい自然環境や様々な文化を有しています。これらの資源を活用し、歴史・自然や個性豊かな地域文化と触れ合い、学ぶ機会の充実に努めるとともに、この貴重な資源を守り伝承していく仕組みづくりに努めます。



(2) 大学等との連携による生涯学習の推進

学問のみやこととしての恵まれた京都の風土や大学等の高等教育機関の豊かな蓄積を活かして、21世紀に向けて、先進的な新しい生涯学習づくりを目指します。

京都府は、40を超える大学や短期大学を有する学問のみやこととして、ノーベル賞受賞者が出ていることなどにもみられるように、学術研究活動が盛んです。

これまで大学等の教育機関は、日本の学術・教育・研究の発展に大きな役割を果たしてきましたが、生涯学習の時代を迎え、地域に開かれた教育機関として公開講座等の開催や図書館等の施設の開放等が期待されています。特に、北部や中部地域においても、南部地域の大学等の集積・蓄積を有効に活かし、地域の要望に応じた講座の開催等が期待されます。

また、社会人の学習意欲が高まる中で、リカレント教育等に力を入れていく必要性も高く、企業や職場と連携して社会人が再び大学等で学びやすい学習環境を整備するとともに、学んだことが適切に評価されるようにしていくことが期待されています。

このため、大学、産業・労働界、行政等の連携と府民の参加により、大学と地域との交流を一層深め、京都の学問のみやこととしての恵まれた風土や大学等の教育機関の豊かな蓄積を活かして、21世紀に向けて、先進的な新しい生涯学習社会づくりを目指します。

(3) 世界と交流を深める生涯学習

日本の文化を代表する京都として世界の文化との交流を目指して、世界の文化を学習する機会や、世界の人々との国際的な学習情報の交流を深める機会と場を整備するとともに、府民一人ひとりの国際化を目指します。

京都は、日本の伝統的な文化が集積し、これらの学習の機会に恵まれています。また、文化学術や産業面での国際化が進んでいます。広く世界の文化との交流を目指して、府民が世界各国の文化を学んだり、情報を得たりする機会や、世界に京都の文化を紹介する機会の充実などを通じ、京都を舞台に、より深く世界の文化と交流ができるような学習の機会を充実します。

また、世界の文化との交流を目指して、異文化に対する理解を深め、お互いの文化を尊重し合い、気軽に打ち解け合えるような「内なる国際化」を促進する学習機会を充実し、府民一人ひとりが国際的な交流や活動ができるようになることを目指します。

今後、ますます増える海外からの留学生・観光客等と交流が深まる中で、更に学習を通じた交流機会やホームステイの充実など、その受け入れのための環境整備を促進します。